

台日同名 32 駅・同名さん 駅長体験付台湾旅行への参加

公益財団法人交流協会
松寺 富貴子

《参加のきっかけ》

「清水」「田中」「大橋」など、台湾と日本には同名の駅が 32 駅もあり、台湾の鉄道旅行のプロモーションとして、駅と同じ名前（姓または名）の日本人が台湾に招待され 11 月 24 日から 27 日の 3 泊 4 日で、各駅の「駅長」を体験できるユニークなイベントを、台湾交通部観光局（台湾観光局）・台湾観光協会が企画し、平成 26 年 3～8 月の間に同名さんの応募を募りました。

各駅 1 名は抽選で決まります。

参加者の皆さんは新聞の広告欄を見てイベントを知り応募した方が多かったのですが、私の場合、職場の入り口に大きなポスターが貼ってあり、自分の名前（富貴）と同名駅があることを初めて知り、驚いたのと同時に、ポスターを見た職員の皆さんから「絶対当選するから応募しなよ！」と勧められ、「あまり聞かない名前だし、これはもしかして!？」と、なぜか最初から当選する予感がしつつ、応募してみることにしました。

待つこと 2 ヶ月！繰り上げ当選ではありましたが、見事予感的中！「駅長体験旅行」への参加が決定しました。

台湾には 2 度訪れ、いわゆる観光名所といわれる場所は見学していましたが、同名というだけで、まだ見ぬ「富貴駅」に不思議と親近感が湧いてきます。

* 1 日目 * (11 月 24 日) 駅長任命式

14 時 15 分、羽田空港から出発。

17 時 15 分、あっという間に台北松山空港へ到着。

同じ便に搭乗していた他の駅の同名さん十数名と、集合しました。

昨年の台湾の冬は異常気象のせい、連日気温が 30 度近くあり、セーターにトレンチコートという出で立ちで出発しましたが、大変蒸し暑い空気が出迎えてくれました。

しかし、大変天気も良く「この暑さこそ台湾だ!」と、これからの行程を楽しみに、バスで駅長任命式及び前夜祭の会場である国賓大飯店へ向かいました。

台湾を初めて訪れる参加者の方々は、日本語の看板が非常に多い町並みに大変驚き、すぐに生活が始められるような錯覚すら感じるとお話をしていました。

会場でようやく、全国から参加した同名さん全 32 名が揃いました。今回の旅は、32 名を北から南まで各方面別の 7 組に分け、約 5 名ずつで移動します。

明日から私が駅長体験をする「富貴駅」のある「北西部」を一緒に 3 日間を過ごす「桃園」「富岡」「竹中」「横山」さんと、円卓を囲みました。皆さん、女性駅長さんです。

会場は私の想像を遙かに超える盛大さで、台湾

交通部次長、台湾観光局局长、台湾鉄路管理局局长、日本観光振興協会の代表者の皆様、多くの台湾のマスコミの方々が出席され、和やかな中にも「台湾の鉄道の旅の良さを知って欲しい！」という「台湾の本気」をジワジワと感じました。

各人に「駅長帽子」と「駅名の入った真っ赤なタスキ」が贈られ、1人1人、名前と駅名を呼ばれ、壇上で紹介をされます。

格好だけでも「1日駅長」になり、気分はどんどん盛り上がって行きます。

台湾観光親善大使であり、この旅行の名誉団長を務める演歌歌手の小林幸子さんも同席されており、偶然にも私と小林さんが同じ高校の卒業生であるため、図々しく旅行当選の驚きを少々興奮気味に話し掛けてしまいましたが、「おめでとう」と喜んでいただきました。

* 2日目* (11月25日) 台北駅での駅長出発式から各方面へ

いよいよ2日目から、駅長体験旅行のスタートです。

朝、台北駅の中央ホールで駅長出発式があり、再び駅長32名が集まります。

皆、台北駅の目の前のホテルに宿泊していましたが、ホテルからホールまでは、もう「駅長帽子」を被り「タスキ掛け」で向かって下さいとのこと。

すっかり盛り上がって来た私は何の抵抗も無く、駅長帽でスタスタ横断歩道を渡りましたが、年配の男性がかなり恥ずかしがっていたのが、何とも日本人らしいなと思いました。

地元の小学生達による、歓迎の独楽回しの演技を観覧した後、小林幸子名誉団長の出発の掛け声の下、いよいよ7つの各方面に別れ駅長体験に出発しました。

【桃園駅／縦貫線北段】

〈日本の桃園駅は、近鉄・名古屋線（三重県）にあります。〉

台北駅から桃園駅に到着。

まず、「モモゾノ」という可愛らしい名字の方がいることに驚きました。桃園駅は桃園市の中心駅で、平日昼間でもホームにはたくさんの乗降客がいました。

駅員さんも多く、1日目の1つ目の駅ということで大歓迎で迎えてくれました。広い駅長室に案内していただき、大きな駅長さんの椅子に座り皆な思い思いのポーズを撮って記念撮影。

改札では、今ではもう使わなくなった切符切りをお借りして、切符切りのポーズ。

ホームで見ていた乗降客の皆さんが、私達が日本人で桃園駅に来た経緯を聞くと、切符を持つポーズをしてくれたり、一緒に楽しむことができました。



桃園駅・他駅の駅長さん達と

桃園駅は現在、エレベーター・エスカレーターがありませんが、設置作業が進んでいるとのこと、完成予想図を見せていただきました。

より快適になった桃園駅をまた見に行きたいです。

【富岡駅／縦貫線北段】

〈日本の富岡駅は、JR 東日本・常磐線（福島県）

にあります。)

富岡駅のすぐお隣は小麦粉工場で、主に小麦などを台中港の方へ運ぶ貨物列車が多く、目の前で貨物の連結作業を見せていただきました。またその際に使う手旗信号も伝授していただき、「また1つ、駅長らしくなってきたかな?!」と、ニンマリです。

富岡駅では、駅員の皆さんがよく食べられているという豚肉と高菜を使ったお弁当を昼食に出していただきました。ランチョンマットは、富岡駅が発行した使用済みの貨物の受取書(段ボール紙)でした。ステキなアイデアに感激し、記念スタンプ代わりにいただいて帰ることにしました。



富岡駅・駅弁とランチョンマット

富岡駅の改札を出ると、日本統治時代に建てられた家屋がほぼ残っている老街で、何とも言えない懐かしい景色が広がっています。

「多くの日本人もここで生活をしてきた時代があったんだなあ」と、感慨深くなりました。

改札脇にそびえる大きなガジュマルの木がとても印象に残る駅でした。

【竹中駅／内湾線】

〈日本の竹中駅は、JR九州・豊肥本線（大分県）にあります。〉富岡駅から竹中駅までは、発車時間の都合上、専用車で移動。

特に商店街なども無く、いたってのどかな風景



竹中駅・水牛のオブジェ

です。

到着してすぐ目に飛び込んで来るのは、黒い大きな水牛のオブジェと、盛り土の上に煉瓦を積み上げたような門が立っていました。

竹中駅のある新竹県は、客家（ハッカ）がルーツである人が大変多く住んでいる地域だそうで、水牛は客家の人々にとって共に農作業をする大切な動物であり、門は客家独特の建築様式で建てられたものだそうです。

のどかな風景とは打って変わり、竹中駅は大変近代的です。

高架駅なので早速エスカレーターを上がりホームに到着すると、なんと「山手線の駅そっくり〜!」なのです。恐らく行き先を知らせる駅名標の中央に緑色の線が入っていたからだと思います。

竹中駅では電気系統のボタンがたくさんある部屋へ案内していただき、電車の通らない時刻を見計らって、ポイントでの一時停止の指示を出すボタンを試し押しさせてもらいましたが、大変緊張しました。

*** 3日目* (11月26日) いよいよ旅行最終日**

【横山駅／内湾線】

〈日本の横山駅は、JR西日本・七尾線（石川県）・

神戸電鉄三田線/公園都市線（兵庫県）にあります。>

ホテルから横山駅までは、発車時間の都合上、専用車で移動。

横山駅は無人駅です。新旧2つのホームがありますが旧ホームは列車の扉の高さに足りないのが今は使われておらず、かわいらしいミニ機関車が置いてありました。



横山駅・ミニ機関車

無人駅のため、お隣の竹中駅駅長が前日に引き続き私達に同行してくれます。そしてこの横山駅でようやく内湾線に出会えました～！ 蝶やたくさんの草花が全面にペイントされているとてもカラフルな車両です。

台湾の濃い緑と亜熱帯の気候には、とても良く映えていました。

【合興駅／内湾線】寄り道駅

途中、横山駅と富貴駅の間の観光スポットになっているとゆう合興駅（無人駅）を見学。

合興駅は内湾線唯一も木造駅舎があり、かつては石灰石の積み出し駅で、内湾線最大の貨物輸送量があったそうです。また、恋人を乗せて走り出した列車を同駅から青年が追いかけたロマンチックな物語（那一年追火車男孩）が有名で、「愛情駅（駅）」の素敵な別称もあります。

かつての貨物関連設備は現在、公園になってお



合興駅・恋人達の出発点

り恋愛にちなんだ可愛らしい商品がたくさん並ぶ土産物店には次から次に観光客が訪れていました。

ちなみに、先ほど紹介した物語のお2人が後にご結婚され、現在、ボランティアとして合興駅をお手入れして下さっているそうです。

お2人にちなんだハートマークのペイントが溢れる駅で幸せ気分を満喫しました。

「幸せになる木」に抱きついて帰って来た御利益を、期待せずにはられません！

【富貴駅／内湾線】

<日本の富貴駅は、名鉄・河和線/知多新線（愛知県）にあります。>

合興駅から富貴駅も専用車で移動。

いよいよ私の名前（富貴子）と同名駅に到着です。「1日駅長として絶対に記念になる写真を残したい!」、と30度の気温も承知の上で、この日は紺色のスーツに白手袋着用です！

富貴駅も無人駅で、道路脇の少し小高い場所に非常ばしごのような階段があり、5、6段上がると1面1線のホームです。ホームの一番端に日本のPASMOやSuicaをピツとするようなカードリーダーがポツンと立っていました。

周辺に商店や住宅は無く、恐らく今回訪ねた5駅の中で一番小さくちょっと寂し気にも映りまし

たが、私にとって特別な駅となりました。

富貴駅の5つ前に「栄華駅」があり、両駅を通れば「栄華富貴」となります。縁起かつぎの意味も込め、また再び富貴駅を訪れてみたいと思いました。写真も本物の駅長のように撮れ、この駅のために着た紺色のスーツは自分では大正解でした。



富貴駅・駅長ポーズ

【内湾駅／内湾線終着駅】寄り道駅

今回の旅行は同名駅だけではなく、周辺の観光地も訪れることができました。富貴駅のお隣は内湾線の終着駅、内湾駅です。内湾線はもともと、日本統治時代に石灰石輸送と採掘された天然ガスの搬出を目的に作られたそうで、現在では、台北から気軽に観光スポットに行けるローカル線として、親しまれているそうです。

内湾は、駅前から広がる老街を散策。

日本の縁日のような商店街を抜けると、かつて映画館だった昔のままの佇まいを残す「内湾戲院」があり、現在、古い映画を放映しているレストランとして再利用されています。



内湾駅・内湾戲院

内湾の住民の大半は客家人だそうで、ここでは客家料理を堪能しました。客家料理は家庭で作る中華料理のようで、日本人の口に大変良く合うと思います。

続いて茶芸店で客家伝統の「擂茶^{レイチャ}」を体験。「擂」は研磨を意味するようで、茶葉・胡麻・落花生等をすり鉢に入れ、油分が出てネっとりするまですりこぎでこぎ、泥状になったらすり鉢にお湯を注いで、溶かしたら出来上がり。



内湾駅・擂茶作り

駅長全員で協力しながら1つのすり鉢を回して作ったお茶です。

明るく親切だった駅長の皆さんやガイドとしてずっと同行し、丁寧に案内をしてくれた交通部観

光局・台湾観光協会の皆さんに感謝をしながら、ほんのりと甘い擂茶をいただきました。

翌日の帰国のため、内湾から再び台北へ戻り、皆さんと一緒に食べる最後の夕食も終わり、「台日同名駅 32 駅・同名さん駅長体験付台湾旅行」の全行程が終了しました。

* 4 日目 * (11 月 27 日) 帰国

帰国便では、何と応募が 1 名しかいなかった「日南さん」と隣になり、「日南駅に集まった皆さんからお米や農作物までいただいて、大変な歓迎を受けました」とお聞きし、違う地域でも私達と同様の歓迎ぶりだったことが分かり嬉しかったです。

各駅各駅での趣向をこらした企画を練り、駅長帽子にタスキ掛けの私達を最高に歓迎していただいた、今まで経験したことの無い旅行でした。感謝の気持ちいっぱいでも帰国することができました。

《旅行を終えて》

自分の名前が御縁で台湾に招待していただき、自分と同名の駅で駅長体験をするという、大変貴重な一生心に残るであろう思い出ができました。また、ガイドブックにはあまり載っていないような場所を訪れ、新たな台湾の魅力も発見しました。

台湾の皆さんの「台湾を知ってほしい!」「ぜひ見に来てほしい!」という熱意を感じた旅です。

私の体験談を通じ、1 人でも「実際に台湾に行ってみたい」、観光地を訪れたことのある方には「まだまだ知らない台湾を見てみたい」と思うきっかけになればうれしいです。

台湾観光協会によれば、「台日同名 32 駅プロモーション」は、今後も異なる内容でのイベントを用意しながら継続実施していく予定だそうです。これからもこの企画を応援しつつ、また台湾ですばらしい体験をする方が増えることを楽しみにしています。